令和2年産

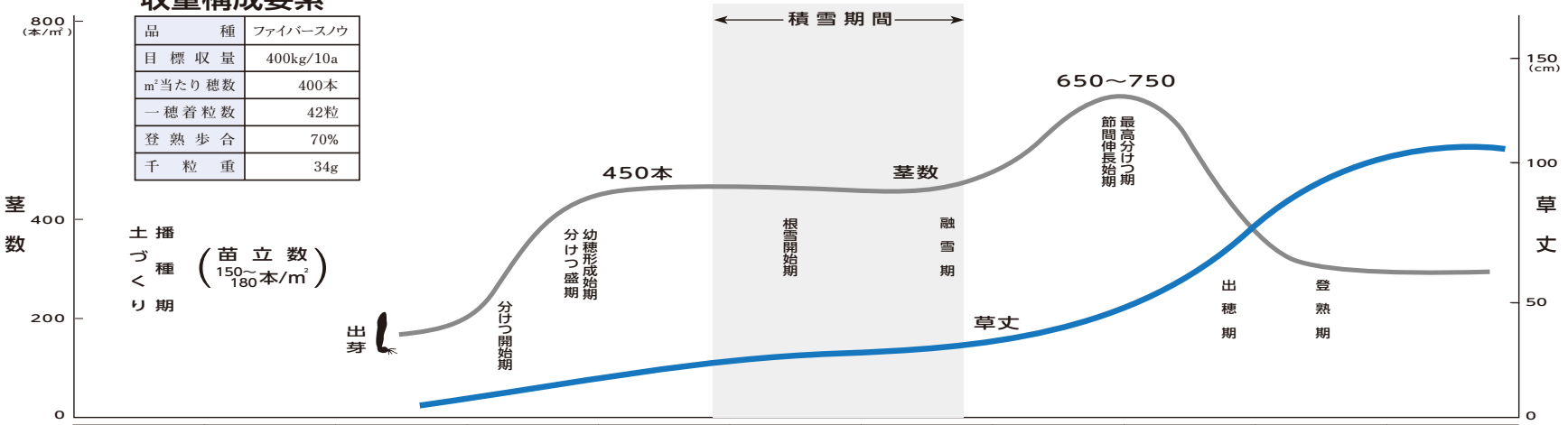
大麦栽培ごよみ

良質麦の生産をめざして

JA能美
能美小松営農推進協議会

収量構成要素

品種	ファイバースノウ
目標収量	400kg/10a
㎡当たり穂数	400本
一穂着粒数	42粒
登熟歩合	70%
千粒重	34g



前作	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
生育過程		播種期	分げつ期		生育停滞期		幼穂形成期	出穂期		成熟期
作業手順	麦作ほ場の団地化	（越冬雑草防除）（カキ鉄エース）酸度矯正資材散布 弾丸暗きょの施工 額縁明きょの施工 排水溝の設置	除草剤散布 基肥施用 播種・覆土 溝切り 耕起・砕土	年内追肥	（播種後～麦3葉期）ハーモニー細粒剤（雑草2～6葉期）アクチノール乳剤 カラスノエンドウ対策	排水溝の手直し	越冬期間	融雪水排除 排水溝の整備	NK17号 消雪後追肥	NK17号 止葉展開期追肥	赤カビ病防除（2回）	収穫・乾燥・調整

※大麦一発の場合は生育状況に応じて施肥

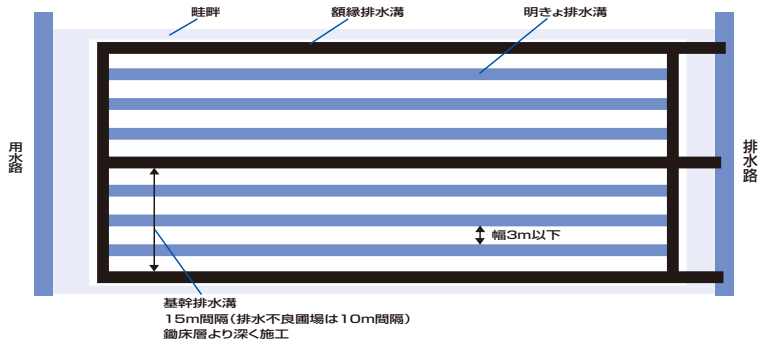
大麦の成熟期判定の目安

穂軸、茎葉が完全に黄化し、粒は弾力がなくロウの硬さ（水分30～35%）

① 排水対策

- 稲刈り後、速やかに明きょを堀り、圃場の排水に努める。
- 排水不良田では、弾丸暗渠やサブソイラーを施工し、土壌の排水性を向上させる。
- トレンチャー等による額縁排水溝を設置し、各排水溝を連結する。
- 排水路への排水口の切り下げを行う。
- 根雪前と融雪時は排水溝の手直しを行い、排水に努める。

図　排水路の施工例



② 越冬雑草対策（スズメノカタビラ、スズメノテッポウ等）

- 雑草の多い圃場では耕起前に、プリブロックスL1ℓを水100ℓに溶かし散布する。

③ 耕起・砕土

- 耕起の深さ12～15cmを確保する。
- 砕土を良くするため、トラクターの速度を低速にし、ロータリーの回転数を上げる。

④ 溝切り

- 畝巾を3～5m間隔（播種巾を考慮し、畝巾を決定する）とし、溝巾は30cm以上で特に圃場の周辺は広く深くする。
- 大型圃場では排水口を2～3ヶ所設け、表面水の早期排除に努める。

⑤ 種子消毒

- 黒穂病と雲形病を防除するため必ず種子消毒を実施する。

薬剤名	使用量
ベンレートT水和剤	種子1kg当たり5g

⑥ 播種　土壌水分等のほ場条件が悪い時に、無理に播種しないこと。

- 出芽、生育を整一にし、収量、品質を向上させるためにはスジ播きが望ましい。
- 10月中旬（10月10日～20日）を中心とした播種の徹底。
  早い播種→生育過剰、穂数増加による細麦化
  遅い播種→生育量不足、穂数不足による収量低下

播種方法	播種時期	播種量（10a）	備　考
スジ播	10月10日～10月25日	6～7kg	
バラ播		8～10kg	播種後に覆土3cm前後となるようにロータリー耕を行う。

⑦ 施肥基準

- **酸度矯正**　大麦の最適pH6.0～6.5を目標に、酸度矯正を行う。

施肥名称	資材名	施用時期	施用量（10a）
酸度矯正	カキ鉄エース	播種前	100kg

- **基肥一発体系**

施用時期	施肥名	資材名	施用量（10a）	備　考
播種時	基肥	大麦一発くんN35	40kg	
2月下旬～4月上旬	追肥	NK17号	6～12kg	生育状況に応じて、施用時期と施用量を調整する。

- **分施体系**

施用時期	施肥名	資材名	施用量（10a）	備　考
播種時	基肥	韓国化成444	40kg	地力に応じて、施用量を調整する。
11月中旬～下旬（播種後約1ヶ月後）	年内追肥	硫安	10kg	年内の生育量（有効茎数）を確保するため、葉が黄化する前に追肥。野菜跡等で生育が旺盛な場合は施用しない。
2月下旬～3月上旬（平均気温5℃以上）	**越冬後追肥**	**NK17号**	**25kg**	**越冬後の生育を促進・増大し、穂数増の効果が高い。**
4月上旬（出穂10日前頃）	**止葉展開期追肥**	**NK17号**	**10kg**	**粒厚や千粒重の増加に効果がある。施用が遅れると精麦品質低下を招くため、遅れずに施用する。**

⑧ 除草剤散布

- **播種後土壌処理**（覆土をしない表面播きの場合は、薬害発生しやすいため散布しない。）

薬剤名	散布時期	施用量	備　考
トレファノサイド粒剤2.5	播種後、出芽前	4～5kg	播種後から出芽前までの間（約1週間）に処理する。
キックボクサー細粒剤F	播種後、出芽前	3～4kg	

- **生育期処理**　ハーモニー細粒剤Fとハーモニー75DF水和剤は、どちらか1回しか使用できません。

薬剤名	散布時期	施用量	備　考
ハーモニー細粒剤F	播種後～麦3葉期	4～5kg	雑草発生前～発生始期
ハーモニー75DF水和剤	麦1葉期～節間伸長期	5～10g/100ℓ	スズメノテッポウ5葉期まで。
アクチノール乳剤	雑草生育初期（穂ばらみ期まで）	200㎖/100ℓ	2～3葉期のカラスノエンドウ等の広葉雑草対象。使用回数2回まで。

- **畦畔除草**

薬剤名	10a当り散布量	希釈液	使用限度回数	備　考
ラウンドアップマックスロード	希釈液50ℓ	水50ℓに薬量500㎖	3回以内	収穫前日まで
タッチダウンIQ				収穫7日前まで
バスタ液剤	希釈液100ℓ	水100ℓに薬量500㎖	3回以内	収穫7日前まで

⑨ 病害虫防除

対象病害	防除時期	薬剤名
赤かび病	**第1回　出穂3～5日後　（無人ヘリ）**	**トップジンMゾル**
	第2回　1回目の1週間後　（無人ヘリ）	**チルト乳剤**

⑩ 収穫・乾燥・調整

- 刈取は、穂軸、茎葉が完全に黄化し、子実の硬さがロウ状で、穀粒水分30%以下で行う。
- 刈取後2時間以内に乾燥機に張込むこと。

栽培上の要点

- 麦は湿害に極めて弱いので、常に圃場の排水につとめ、乾田化をはかること。
- 基肥一発肥料を使用する場合は、適期播種（10月中旬）に努めましょう。
- エンバク跡に麦を播種しないこと。
- 麦跡圃場は夏場の畑地化により地力窒素の消耗が激しいため、必ず緑肥または土づくり資材を散布しましょう。